

花冷え

赤津将大

一本の花が

空から落ちている

わずかな時間のあいだに

幾千の線が横切り

虚空に結晶した

風の絶えない朝に

傾いて落ちるその姿を

偶像にして崇める

南の寒い国の 地下の鉱物的な温度の集会

手を繋ぎ

落ちるものをも見やらない

一組の子どもが石を蹴る

殺伐とした通路

ひとさしゆびの弾^{はじ}かれた

仄かな軌道が翠を香り

花冷えを

そこに不動のものとして

一本の花が

空を落ちている